

ですから、わたし（＝イエス・キリスト）の

これらのことばを聞いて、それを行う者はみな、

岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。

雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、

家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。

新約聖書 マタイの福音書 7章 24節～25節

1995年の阪神・淡路大震災において、神戸市須磨区にある板宿商店街は、周辺の商店街が壊滅的な被害を受ける中で、奇跡的に大きな火災や倒壊を免れました。これは、震災前に行った地盤改良や、頑丈な建物造りの故でした。

老朽化に伴って建て替えを余儀なくされた時、工事の設計を引き受けた設計士が地盤調査をしたところ、砂地の軟弱地盤であることがわかりました。そのため、地中深くの岩盤にパイルを打つことを提案しました。しかし、これには工費も工期も余計にかかってしまいます。一日も早く店を開けたい一部の店主たちは反対しました。けれども、設計士は商店街の組合を説得して、提案通りに30メートル下の岩盤にパイルを打ち、その上に建造物が建てられ、1989年に完成しました。そして、6年後の1995年1月17日にあの大地震が起きました。

周辺の長田区や須磨区の一部が巨大地震とそれに続く火災で延焼した中、板宿商店街は奇跡的に火災を免れました。このため、震災直後から地域住民の避難場所や救援活動の拠点として機能しました。

これは、突然襲い掛かる災害に備えることがいかに大切かを学ばされる出来事です。そしてこれは、表題のキリストのことはの実例と言えます。

しかし、このキリストのことは、自然災害への対策について語られたものではなく、「人生の土台」について語られたのです。

私たちの人生にも、突如として暴風雨や震災のような大問題が襲うことがあります。そして、備えが十分で無いなら、せっかくの人生が台無しになってしまいます。キリストは先のことはに続いて以下のように語られました。



「また、わたしのこれらのことを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。」(同 26 節～27 節)

では、キリストのことはを聞いてそれを行うことが「岩の上の家」となり、そうでなければ「砂の上の家」とは、どういうことでしょうか。

多くの人は、人生とはこの地上で生きている間のことだけだと考え、その間に栄えること、成功することを求めます。言い換えれば、死後のことは考えていません。しかし、キリストは、人間は死んで終わるのではなく、死後の世界があること、そしてそれが、天国と地獄であることを語られました。「生涯の間に犯した罪が、神によって赦された者は



天国<sup>てんごく</sup>に行き、神<sup>い</sup>と共に永遠<sup>かみとも えいえん</sup>に生きることが出来る。しかし、罪<sup>い</sup>が赦<sup>つみゆる</sup>されないまま死<sup>し</sup>んだ者<sup>もの</sup>は、その後<sup>そのご</sup>、神<sup>かみ</sup>からの裁<sup>さば</sup>きを受けて、地獄<sup>じごく</sup>で永遠<sup>えいえん</sup>に苦し<sup>くる</sup>まなければならない。」ということです。

イエス・キリストは単<sup>たん</sup>なる人間<sup>にんげん</sup>ではなく、誕生<sup>たんじょう</sup>する前<sup>まえ</sup>から旧約聖書<sup>きゅうやくせいしょ</sup>に預言<sup>よげん</sup>され、その預言<sup>よげん</sup>通り<sup>とお</sup>に生まれ生涯<sup>しやうがい</sup>を送<sup>おく</sup>られた、神<sup>かみ</sup>の御子<sup>みこ</sup>が人<sup>ひと</sup>となられたお方<sup>かた</sup>です。公<sup>おおやけ</sup>の生涯<sup>しやうがい</sup>（およそ30歳<sup>さい</sup>からの3年<sup>ねん</sup>～3年半<sup>はん</sup>）において数多<sup>かずおほ</sup>くの奇跡<sup>きせき</sup>を行<sup>おこな</sup>われたことも新約聖書<sup>しんやくせいしょ</sup>の福音書<sup>ふくいんしょ</sup>に正確<sup>せいかく</sup>に記録<sup>きろく</sup>されています。

また、自<sup>みづか</sup>らの予告<sup>よこ</sup>通りに死<sup>し</sup>後<sup>ご</sup>三日<sup>みつ</sup>目に肉<sup>か</sup>体<sup>め</sup>を持って復<sup>も</sup>活<sup>ふつ</sup>し、葬<sup>ほうむ</sup>られた墓<sup>はか</sup>から出<sup>で</sup>て来<sup>こ</sup>られ、40日<sup>にち</sup>に亘<sup>わた</sup>って多<sup>おほ</sup>くの弟<sup>でし</sup>子<sup>し</sup>たち<sup>すた</sup>にその姿<sup>あらわ</sup>を現<sup>あらわ</sup>されました。ですから、キリスト<sup>せんきよう</sup>宣<sup>かい</sup>教<sup>し</sup>を始<sup>とう</sup>した当<sup>とう</sup>時<sup>じ</sup>の弟<sup>でし</sup>子<sup>し</sup>たち<sup>はんたい</sup>は、ど<sup>はく</sup>な反<sup>はい</sup>対<sup>たい</sup>や迫<sup>う</sup>害<sup>がい</sup>を受けても、命<sup>いのち</sup>をかけてキリスト<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>じ、キリスト<sup>の</sup>を宣<sup>つた</sup>べ伝<sup>つた</sup>えたのです。このことから、キリスト<sup>たし</sup>は、確<sup>ひと</sup>かに人<sup>かみ</sup>となられた神<sup>みこ</sup>の御子<sup>みこ</sup>であつたことがわかります。それゆえ、語<sup>かた</sup>られたことばはすべ<sup>しん</sup>て真<sup>り</sup>理<sup>り</sup>なのです。



そして何<sup>なに</sup>よりも大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>なことは、そのキリスト<sup>じゆうじ</sup>が十<sup>じゆう</sup>字<sup>じ</sup>架<sup>か</sup>に架<sup>か</sup>かられたことデス。それは、私<sup>わたくし</sup>たち人<sup>にんげん</sup>間<sup>かん</sup>を、死<sup>し</sup>後<sup>ご</sup>に受<sup>う</sup>けなけ<sup>ら</sup>ばなら<sup>な</sup>ない罪<sup>つみ</sup>の刑<sup>けい</sup>罰<sup>ばつ</sup>から救<sup>すく</sup>うた<sup>ため</sup>でした。キリスト<sup>わたくし</sup>は、私<sup>わたくし</sup>たち<sup>つみ</sup>の罪<sup>つみ</sup>をその身<sup>み</sup>に背<sup>せ</sup>負<sup>お</sup>って十<sup>じゆう</sup>字<sup>じ</sup>架<sup>か</sup>に架<sup>か</sup>かられ、身<sup>み</sup>代<sup>が</sup>わりとな<sup>な</sup>って罪<sup>つみ</sup>の刑<sup>けい</sup>罰<sup>ばつ</sup>を受<sup>う</sup>けてく<sup>だ</sup>さ<sup>つた</sup>た<sup>の</sup>です。このた<sup>た</sup>め<sup>め</sup>にこそ、キリスト<sup>よ</sup>はこの世<sup>こ</sup>に來<sup>こ</sup>られた<sup>の</sup>です。そして、その御<sup>み</sup>業<sup>わざ</sup>の完<sup>かん</sup>成<sup>せい</sup>の印<sup>しるし</sup>としてよ<sup>よ</sup>み<sup>み</sup>がえ<sup>え</sup>ら<sup>れ</sup>た<sup>の</sup>です。



イエス・キリスト<sup>すくぬし</sup>を救<sup>しん</sup>い主<sup>う</sup>と信<sup>い</sup>じ受<sup>う</sup>け入<sup>い</sup>れるなら、罪<sup>つみ</sup>が赦<sup>ゆる</sup>され、永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>のいのち<sup>あ</sup>が与<sup>あた</sup>えられて死<sup>し</sup>んでも天<sup>てん</sup>国<sup>ごく</sup>に行<sup>い</sup>く者<sup>もの</sup>とな<sup>な</sup>ります。これによ<sup>よ</sup>って、皆<sup>みな</sup>様<sup>さま</sup>が「岩<sup>い</sup>の上<sup>うへ</sup>の家<sup>いえ</sup>」とな<sup>な</sup>ることが出来る<sup>の</sup>です。

どうか、イエス・キリスト<sup>しん</sup>を信<sup>う</sup>じ受<sup>い</sup>け入<sup>い</sup>れられ、皆<sup>みな</sup>様<sup>さま</sup>が「岩<sup>い</sup>の上<sup>うへ</sup>の家<sup>いえ</sup>」とな<sup>な</sup>られますように。